令和 3 年度埼玉大学卒業式・大学院修了式　学長式辞

本日、ここに埼玉大学卒業式、大学院修了式を迎えられた皆さん、ご卒業、修了誠におめでとうございます。皆さんをこれまで見守り、支えてこられたご家族と関係者の皆様にも、教職員を代表してお祝いと感謝を申し上げます。

本日、学部学生 1,530 名、博士前期課程学生 529 名、博士後期課程学生 24 名が卒業、修了されます。このうち 留学生は 142 名で、中国、韓国、 フィリピン、ベトナム、バングラデシュなどの国を母国とされている方々です。

2020 年から続く新型コロナウイルスのパンデミックという未曾有の事態の中、学問を修め、研究を継続するには多くの困難や葛藤があったことと思います。それでもなお、たゆまず前進し、皆さんが今日の日を迎えられたことに心から敬意を表します。

この 2 年間、未知のウイルスの感染拡大によって世界は一変しました。日本でも、緊急事態宣言等により国民の行動が制限され、経済活動は深刻な影響を受けました。そのような中、新型コロナウイルスの性質や感染の仕組みが徐々に明らかになり、ウイルスのリスク評価が進みました。しかし、感染拡大の脅威に対する人々の捉え方は多様であり、専門家の間でも治療薬やワクチン接種には意見が分かれました。さらに、インターネット上の数多くのデマやフェイク・ニュースが社会的混乱に拍車をかけ、自粛や行動ガイドラインから外れた他者への攻撃など、社会の分断も深刻な問題となりました。個人の思想信条、公益と私益、プライバシーの確保と どう折り合いながら対策を講じるかは、今後も議論を要するところです。

今回のパンデミックのように、事態が複雑で常に変化し、次に何が起きるのかが不透明で、専門家の間でも意見が異なる。このような状態を VUCA(ブーカ)と呼びます。VUCA とは、Volatility 変動性、Uncertainty 不確実性、Complexity 複雑性、Ambiguity 曖昧性の頭文字を取った言葉で、元々冷戦終結後の複雑化した情勢を示す軍事用語でしたが、その後、社会全般にも用いられるようになりました。VUCA は、重大な事故や、大規模な地震や台風など著しい被害を及ぼす激甚災害の際に 顕著に現れます。今回のパンデミックだけでなく、東日本大震災での混乱、特に原子力発電所のメルトダウンによって引き起こされた様々な事象は VUCA そのものでした。

そして今、大きく変化する私たちの社会全体が VUCA の時代を迎えようとしています。これから数十年のうちに、自然環境の変化、AI、情報、ロボットなどの技術革新による産業構造の変化、少子化とそれに伴う生産年齢人口の減少や高齢化による急激な社会の変化が進み、今までに経験したことのない、また、過去からの外挿では予測できない世界がやってきます。これから社会に出ていく皆さんは、この新しい世界を生きることになります。

もちろん VUCA の時代は私たちを不安にさせますが、見方を変えればチャンスの時代とも言えます。不確実で変動するからこそ、様々なパフォーマンスを　発揮できる余地が生まれ、新たな発展のためのイノベーションが進みます。また、複雑で曖昧であることから、多様性が生じ、それを許容する社会が成立します。それは私たちの前に大きな可能性が広がり、一人ひとりが自分の納得できる生き方をデザインし、選択し得るということを意味します。そこではあなたが何を望み、何をして、どう生きるのかということが問われます。

こうした時代を生きる皆さんに、私から二つアドバイスをしたいと思います。

一つ目は、今後も学び考え続けて欲しいということです。

新しい技術が次々に開発され、産業構造が変化する VUCA の時代では、今持っている知識や手法が 短時間で役に立たなくなることもあり、自らの専門分野だけでなく、他分野にも関心をもつ柔軟性が必要となります。皆さんは本学で学問・研究を積み重ね、ご自身の中に教養と専門の基盤を築き上げてきました。今後は様々な経験を積み、さらに学び続けて その基盤をアップデートし、勇気をもって新しい分野に チャレンジしていってください。そして 学んだことについて自ら考え、さらに学ぶことによって自分の思考を鍛える姿勢も忘れずにいて欲しいと思います。

二つ目は、協働、共生する姿勢を持つということです。協働とは協力して働くこと、共生とは共に生きることです。

近年、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための開発目標 SDGs の取り組みが各方面で進んでいます。SDGs の 17 の目標が掲げる各領域は、互いに関連し、異なる領域の人々と協働しながら解決することが求められます。そのためには、未知なるもの、自分の世界とは異なるものを受容し、そこに臆することなく入っていける間口の広さと懐の深さが必要です。それは、人と人との関係性においても言えることです。自分とは異なる　　バックグラウンドや価値観の人たちを理解し、多様な人たちと共生し、　　協働することが、　社会の未来、ひいては皆さん自身の未来を切り拓いていくために不可欠です。

時代の激流の中にのまれることなく、常に学び考え、他者と協働し、自己を確立して、皆さん自身の人生を力強く歩んでいってください。

本学は創立以来70年を超え、9万人あまりの学生が卒業、修了されて　様々な分野で活躍されています。今回のコロナ禍にあたっては、多くの卒業生から 学生の皆さんへのご支援をいただきました。そして、応援とともに、卒業生から「埼玉大学で過ごした日々は私の宝物です」という声や、「卒業してから 38 年。この歳まで仕事をして来られたのも大学での様々な経験があったからこそです」といった言葉が寄せられました。こうしたメッセージから、本学のキャンパスでの思い出が卒業生の皆さんの中にしっかりと根付き、本学での日々が大きな財産となっていることを実感しました。

卒業生となる皆さんにとって、埼玉大学は青春の「ふるさと」とも言うべき場です。将来、苦しいことや思い惑うことに直面したときは、本学で学んだ日々、研究した日々、その日々をわかちあった友人や恩師を思い出してください。きっと、皆さんの中に明日に向かう勇気が満ちてくるに違いありません。

皆さんの未来が希望にあふれ、光輝くことを心よりお祈り申し上げて、式辞といたします。本日はご卒業、修了誠におめでとうございます。

令和４年３月 24 日

埼玉大学長　坂井　貴文